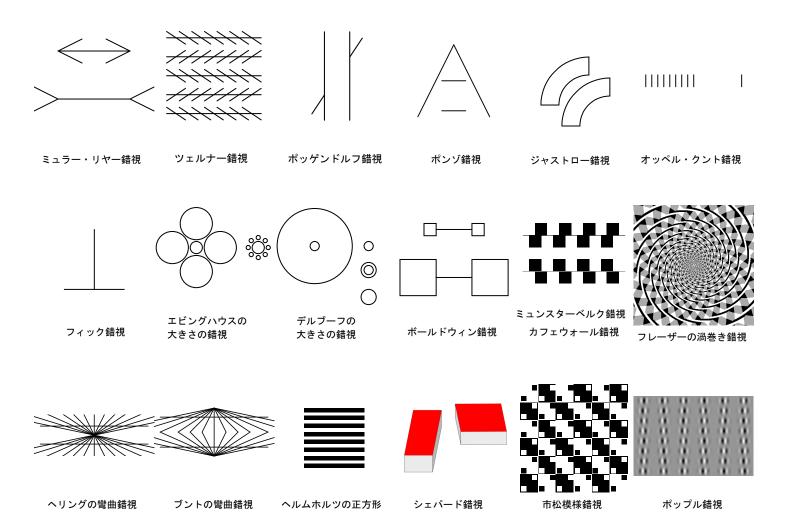
代表的な幾何学的錯視(形の錯視)



- ●ミュラー・リヤー錯視 (Müller-Lyer illusion)・・・同じ長さの線分の両端に矢羽を付けた場合、内向きに付けると線分は短く見え (上図)、外向きに付けると線分は長く見える (下図)。
- ●ツェルナー錯視(Zöllner illusion)・・・平行な線分に斜線を交差させると、それらの交差角を過大視する方位に線分が傾いて見える。
- ●ポッゲンドルフ錯視(Poggendorff illusion)・・・平行線分に遮断された斜めの線分は実際には一直線上にあるのに、右側の斜線がより上にシフトしているように見える。
- ●ポンゾ錯視 (Ponzo illusion) · · · 同じ長さの 2 つの平行線分を逆 V 字形の中に入れると、逆 V 字形の頂点に近い線分が遠い線分より長く見える。
- ●ジャストロー錯視(Jastrow illusion)・・・同じ大きさの扇子形を図のように並べると、扇の中心の側に置いた図形がより大きく見える。
- ●オッペル・クント錯視 (Oppel-Kundt illusion) ・・・右から2番目の線分は両端の線分のちょうど中間にあるのだが、右に寄っているように見える。
- ●フィック錯視 (Fick illusion) ・・・・長さが同じでも、垂直に置かれた線分は水平に置かれた線分よりも長く見える。
- ●エビングハウスの大きさ(円対比)錯視(Ebbinghaus size illusion)・・・・中くらいの円が複数の大きい円に囲まれるとより小さく見え、複数の小さい円に囲まれるとより大きく見える。ティチェナーの円環錯視とも呼ばれる。
- ●デルブーフの大きさ錯視 (Delboeuf size illusion) ・・・ある円がそれよりもずっと大きい円に囲まれると小さく見え、適度に大きい円に囲まれると大きく見える。また、ある円にそれより少し小さい円が中に入ると小さく見える。
- ●ボールドウィン錯視(Baldwin illusion)・・・線分の両端に小さい正方形が接続されると長く見え、大きい正方形が接続されると短く見える。
- ●ミュンスターベルク錯視 (Münsterberg illusion) ・・・上下 2 列の正方形の列が水平に時計回りにずれると、その間に引かれた線分が時計回り に傾いて見える。
- ●カフェウォール錯視 (Café Wall illusion)・・・・ミュンスターベルク錯視の被誘導線分が灰色の場合。錯視量はミュンスターベルク錯視よりも大きい。ミュンスターベルク錯視はカフェウォール錯視の特別な例でもある。
- ●フレーザーの渦巻き錯視(spiral illusion of the Fraser illusion)・・・同心円が渦巻きに見える。
- ●ヘリングの彎曲錯視(Hering illusion of curvature)・・・・平行な2本の水平線分が中心近くで膨らんでいるように見える。
- ●ブントの彎曲錯視(Wundt illusion of curvature)・・・平行な2本の水平線分が中心近くで引き合っているように見える。
- ●ヘルムホルツの正方形(Helmholtz square)・・・横縞模様の正方形では、縦が横より長く見える。
- ●シェパード錯視(Shepard illusion)…2つの平行四辺形は全く同じ形なのですが、違った形に見えます。
- ●市松模様錯視 (checkered illusion) ・・・図はすべて正方形で構成されているが、垂直成分は右に、水平成分は左に傾いて見える。
- ●ポップル錯視 (Popple illusion)・・・縦縞のパッチを縦に並べて縞模様を少しずつ横にずらすと、ずらした方向に縦列が傾いて見える。